

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 27 年 6 月 18 日 (2015.6.18)

【公表番号】特表 2012-528321 (P2012-528321A)

【公表日】平成 24 年 11 月 12 日 (2012.11.12)

【年通号数】公開・登録公報 2012-047

【出願番号】特願 2012-512473 (P2012-512473)

【国際特許分類】

G 0 1 T 1/172 (2006.01)

G 0 1 T 1/20 (2006.01)

G 0 1 T 1/161 (2006.01)

【F I】

G 0 1 T 1/172

G 0 1 T 1/20 F

G 0 1 T 1/20 E

G 0 1 T 1/20 G

G 0 1 T 1/161 C

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 4 月 24 日 (2015.4.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 5】

しかしながら、イベントは準安定性として知られる現象により検出されることもあり又は検出されないこともある。準安定性は、通常、1 又は複数の非同期入力を有する同期回路で無期限に生じ続ける不安定状態である。フリップフロップは、特定の条件下で準安定性の影響を受けやすい 1 つの装置である。フリップフロップは 2 つの論理状態を有する。入力における変化は、フリップフロップを状態間で行ったり来たりさせる。しかしながら、設定時間又は保持時間中に入力に変化する場合、フリップフロップは 2 つの論理状態の間の準安定状態に入ることがある。準安定状態は最終的に 2 つの論理状態へと減衰するが、減衰時間は正確な時間測定を有意に困難にしまう。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 3】

再び図 2 を参照する。単一の検出された放射イベントに対する両方のタイムスタンプが有効な場合には、データ処理ユニット 6 4 と共にルックアップ・テーブル 6 0、6 2 のような回路は、どの TDC が所与のタイムスタンプのために用いられるべきかを決定する。代案として、タイムスタンプは、統計的手段又は別の数学的 / 統計的關係を用いて相互に関連付けられうる。任意的に、処理ユニットは、利益を向上し時間に亘る一貫した信号劣化を考慮に入れるために信頼できないイベント / ビンを無効にし得る。信号劣化に関連する問題は、有意な放射線量が検出される電波観測で一般的である。